

# ふかまちのまど

第三十八号 二年九月一日  
発行元 深町連合町内会  
連絡先 六六三二九二二

## 連合町内会だより

### 祝 敬老の日

深町連合町内会  
文化部長 安藤 志保

深町のご長寿のみなさま、敬老の日を迎えられ、おめでとうございます。新型コロナウイルス感染が長引く中ですが、健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。

ご長寿をお祝いして、75歳以上の方々に、各講・班の役員のみなさまにご協力をお願いして、記念品をお届けさせていただきました。今年度は185人いらっしゃいます。祝賀会につきましては、昨年度に続き、感染症の状況を鑑みて中止させていただきます。

深町でも人口減少と高齢化がじわじわ進む中、町内の福祉課題について、町内会役員・民生委員児童委員・活動者・福祉専門職が一緒に集い、話し合い、考えるために、三原市社会福祉協議会さん、高齢者相談センターどりのむさんにもご協力いただいて、2019年2月から懇談の場を持つてきました。同年8月には「小地域お茶の間づくり事業」を受託し、事業の補助金で、町民会館のキヤスタ1付き長机や座椅子を購入することができました。

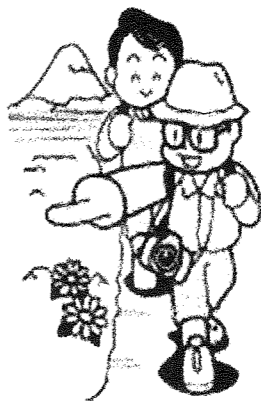
具体的な活動について相談を始めた矢先の感染拡大で、思うような展開ができておりませんが、深町内で楽しく集える「お茶の間づくり」ができるの良いなと思っております。「みんながお茶の間」。「みんなに会えるけえ」という場所・機会が早くできますように！秋を迎えます。気温も下がりますが、縮こまることなく、のびのび元気に過ごしましょう！

※岡田市長からお祝いメッセージをいただきました。

## 歩く会にご参加を

歩く会幹事 石井 堂照

尾道市原田町



月日 九月十四日(火)  
予備日 十六日(木)

### 行程

八時三〇分 深町上組公民館発(車)  
九時〇〇分 原田町小原より探訪開始  
十一時三〇分 探訪終了 昼食  
十三時〇〇分 深町上組公民館着(車)

※新型コロナウイルスの状況によっては、中止する場合があります。

## 深町子どもを守る会

### 子どもをみんなで見守りましょう。

深小の子供は



### ○午後四時前に下校します。

※下校時間は日によって異なる場合があります。

### ○近くで、遠くで、みんなで見守りましょう。

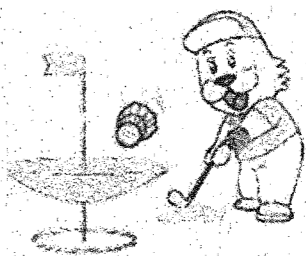
### ○あいさつ 声かけをしましょう。

「ふかまちのまど」ホームページのアドレスは  
<http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html>

## TBG協会より



## 令和三年八月三原市月例ターゲット・バードゴルフ大会



三原市TBG月例会大会を、八月二十二日(日)に予定していましたが、コロナウイルス感染拡大防止の為、中止しました。九月の月例会大会は、九月十九日(日)に行います。

### TBG協会

会長 船本 雄三

## 買い物レシート投函のお礼

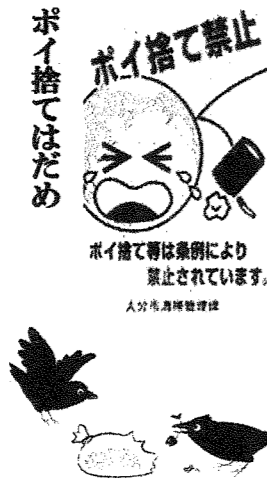
### 太鼓踊り保存会

会長 西本 薫

ニチエー中之町店に於いて買い物レシート投函に、ご協力いただき有難うございました。

現在は、コロナ禍のために活動は自粛していますが、普通の活動が出来るようになりましたら皆様の温かいご支援を、太鼓踊り保存会のために大切に使用させていただきます。

有難うございました。



ポイ捨て禁止  
ポイ捨て等は条例により禁止されています。  
八分市環境管理課

わがまちをこみのない

きれいなまちに

犬のふんは飼い主が

責任を持ってしましましょう。

## 謹んでお悔やみ申し上げます

追 嘉代子様 八十八歳  
(下組 一班) 七月二十五日  
小林 啓子様 八十八歳  
(下組 四班) 八月一日  
村上 和美様 六十九歳  
(上組 上成瀬講) 八月十九日

## 深町各種団体九月行事予定

◆連合町内会  
▼敬老会(記念品のみ) 一日  
▼小学校 六日  
▼始業式 一日  
▼委員会 六日  
▼道徳参観日・清掃活動 一七日  
▼スクールカウンセラー 二二日  
▼代表委員会 二四日  
▼研究会(自主公開) 二九日  
◆如水館中学・高校  
▼身だしなみ週間 八・三二・三日  
▼学年朝会(高一年) 九日  
▼生徒朝会(中) 一〇日  
▼学年朝会(高二) 一〇日  
▼学年朝会(高三) 一三日  
▼水明祭(非公開) 一七日

## 深の歴史余話より

平成二年(二〇〇〇)八月発行

深町町内会連合会  
深郷土誌編集室

文・高崎 壽郎  
絵・船本 輝明

### 堂さん巡り(三)

Ⅱ堂の構成と沖成瀬地蔵堂  
沖成瀬観音堂Ⅱ



観音堂の歓喜天

「歓喜天」は、朱塗りの厨司におさまった高さ15cmの青銅製(ブロンズ)の立派な双身像である。後で近所の人に聴いたのであるが、どこで聞いたのか花街の人が大勢でお参りに来たことがあるとか。他に石仏(船形坐像)一体。ここの観音像は他の堂と異なり、三方が板張りで見小屋風のものである。これなら寝泊りもできる。棟札も五枚残っており、その一枚は享保十五年(一七三〇)で、今まで発見されたものでは一番古い。それには、国家安全、百姓安全、村内繁昌を祈願していることが記されている。村全体を考えることは素晴らしいことである。

## お祝い

お元気に敬老の日を迎えられましたことを謹んでお祝い申し上げます。皆様がいっまでも健やかに、生きがいを持って、毎日を楽しく過ごされますよう心からお祈り申し上げます。

令和三年九月

三原市長

岡田 吉弘

堂さん巡り(四)

II 堂の位置と中畑三木堂  
千川千川堂  
盛末地藏堂 II

堂は一般に辻堂といわれるように、村落の主要な交差点、村境、峠などに位置していた。

比較的に平坦な集落だと、道路に面して田圃の中にぽつんと建つものもあり、旅行者の休息、住民の自由な集合場所としての機能を持つところから、集落全体から眺望できる場所が選ばれている。また、住居の点在する山村では、峠や村境に建てられ、堂と並んで地神碑、常夜灯、道標なども建っていたりする。だが、土地の神社仏閣とは完全に遊離し独立しているのが特徴である。

明治以降、道路の関係で、道路ぞいに若干の移転を行ったものもあつたが、宗教的關係から移動しなされたものもある。深の場合、移転された堂は六を数える。

三木(さんき)堂は、中畑中畑の小林鮮魚店南にある。



三木堂の石仏

堂は木造寄せ棟造りで、平成元年(一九八九)草葺からトタン葺きになった。

本尊は丸彫立像の地藏菩薩で、立像は珍しく他に石仏は八体(船形坐像)が安置されている。堂守りは乗兼進さん一家。

この堂は、乗兼一族の連帯強化と繁栄を祈念して建立されたもので、文政二年(一八一九)の古地図には載っている。

千川堂は中畑千川にあり、木造寄せ棟造りスレート葺。

本尊は地藏菩薩で、石仏六体(丸彫坐像一と船形坐像五)から成る。

この堂は以前、小川広光さん宅横にあつたが、大正年間に、萩原進さん宅地内に移転再建された。萩原さん一家が管理。

堂とはいえ、かなりこつた細工がされており、特に宝珠と合天井は見事である。

盛末地藏堂は、下組から久山田町へ通じる道(旧尾道一八幡道沿い)の山裾にひっそりと建っている。

木造切り妻造りカワラ葺。本尊は地藏菩薩で、石仏三体(船形坐像)がある。

この堂は、芸藩通志に載っている古い堂であるが、最近では昭和四四年(一九六九)堂修理の棟札がある。

集落からは少し見えにくい所に堂はあるが、河原キクヨさん一家が熱心に世話をされている。

記録によると、明治十三年(一八八〇)時の戸長(後の村長)乗兼祐四郎は、山野道場として深にある一五の堂守を調べ、御調郡長石川完治に報告している。

堂さん巡り(五)

II 堂の分布と迫谷地藏堂・観音堂  
猿谷観音堂・地藏堂 II

堂と称するものすべてを含めて、県内の分布をみると、福山・尾道・三原・府中・三次・庄原の各市、および深安・芦品・沼隈・神石・甲奴・双三・比婆・世羅・御調・豊田・高田・賀茂郡の東部など、主として備後地域に多く分布し、安芸地域では東部のごく一部に限定されるようだ。何故備後地域に堂は多く分布しているのだろうか。



千光寺より尾道大橋を望む

ある文献には「備後国福山一〇万石の藩祖水野勝成は、若い時諸国を遍歴した。そして、旅の途中、辻堂の便益性を身をもつて体験した。

元和五年(一六一九)福山に封ぜられたが、その政策中に四つ堂の普及があつた。即ち、藩内の各村落におよそ三か所平均建てさせた。備後地方では、水野勝成の事績として四つ堂の存在を高く評価しており、誰もがそう信じている」とあり、特に福山藩やその周辺に多く分布していたことがわかる。

迫谷地藏堂は下組綱掛寛さん宅横にあり、木造寄せ棟造りトタン葺。本尊は地藏菩薩で石仏三体(船形坐像)を安置している。

堂の創建は相当古いものらしく、綱掛さん一家が熱心に世話をしておられる。

迫谷観音堂は下組迫賢一さん宅西隣にある。木造切り妻造り、カワラ葺。

本尊は観音菩薩で、木彫立像三体と石仏二体(船形坐像)から成る。迫さん一家が堂守り。

昭和五十七年(一九八三)三月、堂を改築した。猿谷観音堂は下組秋本俊之さん宅西側の山裾にある。

木造寄せ棟造りカワラ葺。本尊は観音菩薩で、木仏丸彫立像二体と石仏多数(船形坐像)より成る。

古い棟札が二枚あるが、残念ながら判読できない。でも、文政二年(一八一九)の古地図に載っているから相当古いことはわかる。

深郷土誌には、「旧盆には灯明を点じて、七月十六日には亡霊供養のため、老若男女が相集い手踊りを行っていた」とある。

床板も破損多く、堂崩壊のおそれがある。

猿谷地藏堂の創建は九丈久で次に橋詰(下組公民館横)へ移り、そして如水館高校の造成による綱掛川の改修に伴い、川の管理設置(増幅)により、移転を余儀なくされ、現在猿谷観音堂のすぐ南にある。

木造切り妻造りカワラ葺。本尊は地藏菩薩で木仏丸彫立像がある。

堂は明治の初期に創建されたようである。平成六年(一九九四)十二月現在地へ移転再建された。

観音堂も地藏堂もや、見えにくい場所であり残念である。

ところで、私たちの住む深は「堂」の多い町である。

四つ堂を研究されている三原在の郷土史家は、次のように話された。

「私が調べた所では、三原市全体で七十八の堂を数える。その内十五が深町にある。これは約五分の一に当たり、深に多くあることがわかる。

このことは、深の人々は信仰心が厚く、仲間意識、相互扶助の精神が強かったことを意味する。それが、何世代にもわたる堂の維持継承につながっていると思う。」と。

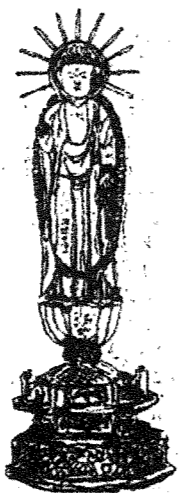
深町は「堂のある町」といってもよいと思う。

堂さん巡り(六)

II 堂の利用と沖田阿弥陀堂 II

全体的に辻堂、四つ堂と称するものは、信仰、地域住民や旅人の憩い、レクリエーションの場として利用された。まず、家族の無病息災、家業の繁栄、祖霊の供養、施餓鬼法要など、信仰の場として堂をくらしと信仰の中心においた。

また堂は、名もない旅人や地域住民の休息、雨やどり、わらじのはきかえなど心身の休まる場所でもあつた。夏には、蝉しぐれを夢路にききながら、昼寝をする旅人や村人がいた。堂は自由で気楽な所だつた。



阿弥陀堂 阿弥陀像

お盆には、堂の広場で踊りの輪がつけられ、終夜にぎわつた。戦時中は、堂で常会が開かれ、配給物資の分配も行われた。農村では、農作物のできばえがよく話し合われた。

阿弥陀堂は中畑沖田にあり、木造寄せ棟造りカワラ葺。本尊は阿弥陀如来で、高さ28cmの木彫金色の立派な仏像がある。他に石仏四体(船形坐像)もある。

近年、破損がひどくなり、昭和六一年(一九八六)に改築されたが、堂の板に次のような縁起覚え書きが記されている。

合掌沖田阿弥陀堂縁起覚え書き  
当沖田阿弥陀堂の建立の年号は明確ではありません。言い伝え、老人の証言記録板に依ると次のことがいえるのです。  
当地蔵に於いて、浄土真宗が広く

信仰し始められた初期、即ち各戸に未だ仏像が無い頃、大通寺、善教寺、専福寺、浄泉寺の四ヶ寺の勧奨に依り、上組中組共有の堂守が中畑内に建立され、地区内の住民は阿弥陀如来の広い慈悲におすがりして、色々な苦痛から解放されて安心立命を請願したのであります。

明治四拾四年六月、火災によって焼失し、県道の開通に伴って明治四拾五年春月、現在地に再建されました。

爾来、七拾五年の歳月を経て破損もひどくなり、関係地区住民の善意協賛を得て、修理並びに屋根葺替を行いました。

昭和六拾老年五月吉日  
世話人一同識

阿弥陀堂は芸藩通志にも載っており、深でも古い方の堂と言える。

人々は、朝な夕なに阿弥陀堂の方角に向かつて拝礼し、野良仕事で近くを通る時も同様に敬虔な祈りを捧げたことと思われる。

この堂は、県道拡張により再度移転を余儀なくされる所となり、平成十一年(一九九九)八月、元の場所へ移転され、再度中畑内阿弥陀堂となつた。これは珍しいといえる。

堂さん巡り(七)

II 堂の現状と大谷浄土堂  
沖成瀬峠堂 II

堂の改築や補修は、講中の出夫や寄付などによって行われる。管理の責任者は、創建者またはその子孫、堂所在地の地主、山主、講元などがなつていた。

管理者の努力にもかかわらず、現況は老朽化あるいは荒廃したものも多くなつてきている。

戦後、信仰意識、村落共同体的意識が薄くなるにつれ、世話をする人もいない状況におかれたり、道路、宅地等の土地造成その他の開発のため、廃棄または移転を余儀なくされたり、中には旧道に放置されたまま山林原野に埋れたものもある。

浄土堂は中畑大谷にあつたが、堂は崩壊して無い。

本堂は地藏菩薩で石仏六体(丸彫坐像)が寂しく坐る。石仏は六地藏と思われるが、内五体は首なし。うす暗い林の中に不気味な空気が漂う。

尚、余談であるが、一般に地藏には首なしのものが多くいる。

それは、不心得者がいて博打などで「つき」を呼ぶため、地藏の首を懐にしてその場に臨んだという。そして、当たった時はお礼をいって元の場所に返したが、目の出ない時はそのままと捨てたものが多かったという。

この堂は、深と久山田の村境に位置していた。道は、尾道への近道で、かつて村役場が久山田にあつたので、村会議員や役場に用事のある人がよく利用していた。また、農作物や薪用の粗朶(切り取った木の枝)や、正月用の裏白などを尾道へ運ぶ道でもあつた。

浄土堂は、この道を行き来する人々にとつては、疲れをいやす格好の場所であつた。が、今は昔日の面影はなく、深からは雑木が邪魔して通れない。このままでは、いずれ山林に埋没するかもしれない。